

令和4年度 東京都農林総合研究センター 研究成果発表会プログラム

開会			13:30
	発表演題	発表者	時間
1	<p>学校給食向け野菜の品種選定と収穫期の拡大 ～ジャガイモ・タマネギ・ニンジン～</p> <p>ジャガイモ、タマネギ、ニンジンは学校給食で利用頻度の高い野菜です。これらの品目を対象に、調理に適した特性を持ち、収量性のある品種を選定しました。さらに、出荷時期を広げるための栽培方法や貯蔵法を明らかにしました。</p>	園芸技術科 蛭木朋子	13:30-13:50
2	<p>ヤシガラを用いたトマト養液栽培で発生した萎凋症状の原因究明 ～病原となる微生物種を明らかにし、熱による防除法を検証しました～</p> <p>都内で普及がすすんでいるヤシガラを用いたトマト養液栽培において、ここ数年、地際茎腐敗や萎凋症状が散発的に発生しています。そこで、症状の原因となる病原微生物の種類を明らかにするとともに、熱による防除法を検証しました。</p>	生産環境科 久保田まや	13:50-14:10
3	<p>袋かけによる少花粉スギ種子の発芽率向上について ～カメムシの多発年においても袋かけには高い防除効果が認められました～</p> <p>花粉発生源対策として花粉症対策品種の植栽が進められており、都産の少花粉品種における種子の増産が求められています。しかし、種子はカメムシの加害により発芽率が低下します。そこで、スギ採種木に袋かけをすることで被害を防除する方法を紹介します。</p>	緑化森林科 奈良雅代	14:10-14:30
4	<p>ナシ樹体ジョイント仕立てにおける東京特産品種「稲城」の生育特性と果実 ～苗木成から定植4年目までの評価をしました～</p> <p>樹体ジョイント仕立て法は、早期に成園化できる技術として全国的に注目されています。改植方法として樹体ジョイント仕立て栽培を、東京特産品種「稲城」で検討しました。苗木成から定植4年目までの評価を行い、3年目から本格的な収穫ができることを確認しました。</p>	園芸技術科 杉田交啓	14:30-14:50
休憩			14:50-15:00
5	<p>都内黒ボク土畑における土壌飛散の要因とその抑制策 ～冬期に発生する土ほこりについて検証しました～</p> <p>住宅地に隣接する都内農地の9割以上が軽く飛びやすい特徴を持った黒ボク土であるため、冬季の土ほこり対策が求められています。今回は、冬季の土壌飛散が起こる条件とその抑制策について報告します。</p>	生産環境科 柴田彩有美	15:00-15:20
6	<p>江東地域におけるハウスエダマメの適正品種 ～作型と出荷形態に適した品種と栽培法を明らかにしました～</p> <p>江東地域のエダマメ栽培は、ハウス利用により収穫は4月～11月まで拡大し、また出荷も、枝付き束・切り枝・莢もぎ、と様々な形に調整されます。本研究では、多様化する生産体系に対して、作付時期と出荷形態に適した品種と栽培法を明らかにしました。</p>	江戸川分場 馬場 隆	15:20-15:40
7	<p>東京うこっけい卵のさらなる高付加価値化 ～カロテノイド強化卵で都民と農家をよりウィンウィンの関係に！～</p> <p>食餌性カロテノイドが卵に及ぼす影響について調べたところ、卵黄色の改善と活性酸素消去活性を高めることが分かりました。特に東京うこっけいは、食餌性カロテノイドによって卵質を改善するための優れた品種であることが判明しました。</p>	畜産技術科 小嶋禎夫	15:40-16:00
8	<p>直売所をリアルタイムで見られるアプリ「見えベジ」を開発 ～消費者と生産者をつなぐ新たなサービスです～</p> <p>スマートフォンで庭先直売所の売り場を見られるカメラとアプリを開発し、リリースしました。消費者は庭先直売所の販売農産物を確認してから買い物に行けます。生産者は売れ行きに応じた補充、集客への活用ができます。</p>	スマート 農業推進室 保坂三仁	16:00-16:20
閉会			16:20